2007 年 2 月 5 日改訂
2007 年 1 月 31 日発行

人社研ニュースレター

（博士後期課程）

第 16 号

発行者
千葉大学大学院
人文社会科学研究科博士後期課程
phone/fax 043-290-3574（助手室）
sshassist@shd.chiba-u.ac.jp

平成 18 年度前期学位記授与式

目次

巻頭辞 1
平成 18 年度後期学位記授与式 2
所属教員・院生の受賞 2
新任教員紹介 3
人社研博士後期所属教員による出版物 4
社文研・人社研院生の研究業績紹介 5
平成 18 年度後期全体研究会のお知らせ 5
平成 19 年度紀要刊行予定 5
日経 BP ムック「変化する大学」シリーズ
『千葉大学』 6

共同研究の陥穽

人文社会科学研究科長　　秋元英一

東京大学工学系大学院の教授と助手が、遺伝子にかんする論文について、論文が捏造(ねつぞう)されたとは断定できないが、就業規則の「大学の名誉または信用を著しく傷つけた場合」に当たるとして、懲戒解雇処分が発表されたニュースは記憶に新しい（2006 年 12 月 28 日、朝日新聞）。 その後、NHK 総合テレビの「クローズアップ現代」（１月 10 日）でも、渦中の 2 人が登場して、生々しい映像や会見が流された。この番組では、論文の主張を根拠づける実験データがきちんと保存されていないと判明したことが印象に残った。解説者の北澤宏一氏は、問題の背景に、短期間に業績を続けて出していかないと競争に敗れるという現在の研究環境の変化があるのでは、と指摘していた。教室の中で、教授に買われる助手というのは、教授がほしいと思うような実験データをすばやく用意できるような人だとも言われる。 第三者から見れば、いくら競争が厳しくてもルールを守らないのでは、元も子もなくなると言いたいところだが。

ひるがえって、われわれ人文社会科学の創造の現場はどうであろうか。たとえば、科学研究費による共同研究といっても、理系に似ている実験系の教室を別とすると、「共同」性は緩やかなもので、ほとんどの場合、個人研究の集成のような形が多いのではないか。教授といえども手足になるような助手や秘書がいない場合がほとんどで、コンピューターによる処理が簡単になってきたことを良いことに、あらゆることを自前でやらなくてはならない。他大学の仲間と会うと、とにかく最近忙しくなって、というのが枕詞のようになっている。

私自身の乏しい経験から見ると、アメリカの大学の場合、研究室の広さや個人秘書がいるかいないか、果ては年収の違いに至るまで、業績によって格付けされた＜差別＞が当たり前になっている。むろん、行政だけをやっているような教授もいるところは万国共通かもしれないが、研究者間の競争はおおむねシビアで、しかも、日本のような＜なあなあ＞領域が狭く、若いときの不勉強は一生たたるような構造と見える。研究者本人に対する業績の見切りも、日本よりも年齢が若いうちであろうと思われる。日本では、逆に業績が特段に優れていても、文系の場合には、ほとんど待遇に反映されず、せいぜいのところ、その業績を土台に科研費を取るくらいなものである。

そこに、法人化とともに、性急な業績反映型の給与体系を導入する動きが出てきたので、すわ一大事、というわけである。しかしながら、若い優秀な学者を優遇することが学問の発展にとって大事なことは論を俟たないので、彼らを良い勉学環境に置くことを心がけることで、われわれ自身の＜競争環境＞もリーズナブルなものに変わっていく可能性がある。競争を避けることが万能ではないと思われる。

2007 年 2 月 5 日改訂
2007 年 1 月 31 日発行

平成 18 年度前期学位記授与式

2006 年 9 月 29 日（金）、社会文化科学研究科科長室に於いて学位記授与式（左写真）が行われ、8 名の方が社会文化科学研究科を修了し、学位を取得されました。

課程博士

氏名	論　題	取得学位
武田加奈子	接触場面における勧誘談話管理	博士（学術）
エレナ・パンチェワ	日本語の擬声語・擬態語における形態と意味の相関についての研究	博士（文学）
下地賀代子	多良間方言の空間と時間の表現	博士（文学）
エカテリーナ・スラビンスカヤ	社会主義から資本主義への移行期の研究―ロシア経済を中心に―	博士（経済学）
高橋孝次	「稲垣足穂」の文学的研究―イメージと痕跡をめぐって―	博士（文学）
西田一豊	福永武彦研究―小説形式と相対化―	博士（文学）
登尾章	悪徳の豊潤―B.マンデヴィルの法哲学的研究―	博士（法学）
吉永明弘	環境保全の公共哲学―ローカルな視点からのアプローチ―	博士（学術）

所属教員・院生の受賞

三井吉俊先生（右写真）
　第４２回日本翻訳出版文化賞

下地賀代子氏
　第２８回沖縄文化協会賞金城朝永賞（言語学）

受賞された三井先生からコメントをお寄せいただきました。

友人と共訳した翻訳書『ジャン・メリエ遺言書』（法政大学出版局、2006 年 2 月）が幸運にも第４２回日本翻訳出版文化賞（国際翻訳家連盟日本代表機関・日本翻訳家協会 06 年 10 月）を受けました。

現在、欧米における「啓蒙思想」の再検討がなされていますが、上記の作品はそのような研究動向の中で脚光を浴び始めた、１７世紀後半から１８世紀前半にかけてヨーロッパでひそかに流布していた「哲学的地下文書」の代表作の一つです。フランスの無名の一司祭がひそかに遺言書として作成していた、「無神学大全」ともいうべき大部の作品を手書き原稿をもとに翻訳したものです。

受賞理由の中に、「異文化間の文化交流と我国文化の向上」に貢献したと書かれています。いささか気恥ずかしいような評価をいただいたわけですが、この言葉が意味すること自体は、強調する価値があるでしょう。「異文化間の交流」とは、「異文化・異文明間の交流」と考えるべきでしょうし（各政治体制や各宗教的ブロックのあいだの、という意味を含めれば）、また「我国文化の向上」は、「自国についての徹底した考察のみが普遍的次元に達しうる」という考え方に立って実現されるべきでしょう。このように考えてくると、私のささやかな研究も、私たちの大学院の研究・教育の現場に生かすことができると思います。

（三井吉俊　本研究科教授）

お詫び

本ニュースレターは 2007 年 1 月 31 日付で発行され、同日の人文社会科学研究科教授会において配布されましたが、三井吉俊先生のコメントに編集上のミスで脱字がありました。謹んで訂正するとともにお詫び申し上げます

新任教員紹介（前号に続く）

①よみがな
②人社研での担当科目
③生年
④最終学歴
⑤職歴
⑥研究テーマ
⑦主要業績
⑧趣味や特技など
⑨大学院生にひとこと

平成 18 年 4 月着任

後藤弘子教授

①ごとう・ひろこ
②ジェンダー・少年法論
③ 1958 年
④ 1987 年　慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学
⑤ 1991 年～立教大学法学部、1993 年～富士短期大学、2002 年～東京富士大学、2004 年～千葉大学大学院専門法務研究科
⑥少年法、ジェンダーと法
⑦『ビギナーズ少年法』（編著、成文堂、2005 年）、『犯罪被害者と少年法』（編著、明石書店、2005 年）、『少年犯罪と少年法』（編著、明石書店、1997 年）
⑧散歩
⑨専門外のことにも関心を持つことで、専門対象を違った目で見ることができます

人社研博士後期課程所属教員による出版物

佐藤博信『中世東国政治史論』塙書房、2006 年 10 月、A5 版、448 頁、¥11,000 ＋税。

【自著紹介】

この度上梓した『中世東国政治史論』は、1986 年から 2005 年に掛けて発表してきた諸論稿と若干の新稿を織り交ぜながら四部、第１部　関東足利氏の世界、第２部　房総里見・武田氏の世界、第３部　高野山「西門院文書」の世界、第４部　安房妙本寺の世界、に分けて編集したものである。従来からの関心に基づく第１部と房総地域史との関わりを自発的に持つことによってなった第２部・第３部・第４部から構成されている。第１部は、先著『古河公方足利氏の研究』(校倉書房、1989 年)他で未検討であった鎌倉府段階から古河公方段階の関東足利氏一族の基本的な動向を整理したもの。第２部は、房総戦国史の中心である里見・武田両氏の動向を新たな視点から展望したもの。第３部は、高野山「西門院文書」を通じて房総の戦国史を多角的に検討したもの。第４部は、先著『中世東国日蓮宗寺院の研究』(東京大学出版会、2003 年)で扱えなかった安房妙本寺の諸側面について検討したもの。この構成からも、従来に増して私の房総地域史研究の比重が大きくななったことが分かるが、これは、千葉大学の一教員としての責務遂行の結果でもあったと認識している。研究においては、あくまでも中世東国史研究という基本的視点を維持してきた積もりであるが、やはり個別的な事例研究に終始したきらいもあり、反省するところ大である。また昨今の中世東国史研究の隆盛に対して、どこまで一学徒として対応できたのも些か不安である。大方の建設的な批判を得てさらに精進できればと思っている。なお、本書に収録した論稿の多くは、講義で話し、また演習で扱ったものである。特に安房妙本寺や高野山「西門院文書」の研究は、ここ 10 年に及ぶものである。その意味で、受講生との協同作業といってもよい性格のものである。ともに学んだ成果をこうして発表できたことを素直に喜びたいと思う。(佐藤博信)

三浦佑之『日本古代文学入門』幻冬舎、2006 年 9 月、A5 判、330 頁、¥1,700 ＋税。

三浦佑之『金印偽造事件』幻冬舎新書、2006 年 11 月、230 頁、¥720 ＋税。

三浦佑之『口語訳古事記　神代篇』文春文庫、文藝春秋、2006 年 12 月、313 頁、¥600 ＋税。

三浦佑之『口語訳古事記　人代篇』文春文庫、文藝春秋、2006 年 12 月、521 頁、¥686 ＋税。

Sugita K, Hatakeyama R, Shimoyama I. "Hiragana" and "Romaji" phonological Reaction Time in Children of Italian-Japanese Bilinguals. IMJ 2006;13(3):195-197.

【研究紹介】

ミラノならびにローマ日本語補修校に通う児童を対象に、ひらがな、ローマ字読字反応検査を施行。対照とした同年齢日本人児童に比し、ひらがなでは遅延が認められた。年齢が上がるとともに、反応時間は短縮するため、教育や環境要因の影響が示唆される。今後は有意味語や無意味後、数字

の読字を調査予定である。また、ナポリ大学との共同研究で、日本語学習イタリア人大学生でも調査しており、教育評価判定への応用も検討中である。(杉田克生)

社文研・人社研博士後期課程院生の研究業績紹介

犬塚康博「屹立する異貌の博物館」藤原書店編集部編『満洲とは何だったのか〈新装版〉』、藤原書店、2006 年 11 月 30 日、200-210 頁。

犬塚康博「宮澤賢治「銀河鉄道の夜」の「標本」考」『愛知文教大学比較文化研究』第 8 号、愛知文教大学国際文化学会、2006 年 11 月 30 日、1-16 頁。

アルタン・ジョラー「都市社会に生きる呪術・宗教的治療者―ヤス・ベリャチの事例研究―」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』第 9 号、2006 年 8 月。

吉永耕介（共著）「大学の情報教育における e ラーニング科目の改善と自学学習の効果」『情報文化学会誌』第 13 巻第 2 号、2006 年 11 月。

平成 18 年度後期全体研究会のお知らせ

平成 19 年 3 月 5 日（月）～ 6 日（火）の 2 日間にわたって開催されます。プログラムの公表は 2 月上旬に予定されておりますので、人社研・社文研ＨＰでご覧下さい。

人社研ＨＰ
http://www.shd.chiba-u.ac.jp/~ghss/activity_general.html
社文研ＨＰ
http://www.shd.chiba-u.ac.jp/b_zentai.html

平成 19 年度紀要刊行予定

『人文社会科学研究』
第 13 号

（2006 年 9 月 28 日発行）

『人文社会科学研究』第 15 号について

募集	2007 年 5 月 7 日（月）～ 5 月 31 日（木）午後 5 時
原稿締切	2007 年 6 月 28 日（木）午後 5 時
発行	2007 年 9 月下旬

『人文社会科学研究』第 16 号について

募集	2007 年 10 月 15 日（月）～ 11 月 15 日（木）午後 5 時
原稿締切	2007 年 12 月 13 日（木）午後 5 時
発行	2008 年 3 月中旬

『スタイルガイド』改訂（2007 年 4 月 1 日付）

第 15 号より、院生の連続投稿制限が撤廃されます。人社研院生の方の場合、「書評」の単位（選択科目）を取得するには、書評 2 本を公刊する必要があります。どうぞ奮ってご投稿下さい。

尚、「書評」単位の取得を目的とする場合、400 字詰め 20 枚前後が望ましいとされております（本研究科博士後期課程学務委員会参考意見）。

※『投稿規定』『スタイルガイド』など詳細はＨＰをご覧下さい（現在は改訂前の内容）。

人社研ＨＰ
http://www.shd.chiba-u.ac.jp/~ghss/students.html
社文研ＨＰ
http://www.shd.chiba-u.ac.jp/domestic/index.html

日経ＢＰムック
「変革する大学」シリーズ
千葉大学

日経ＢＰムック「変革する大学」シリーズから『千葉大学 2007 － 2008 年版』が刊行されました。

出身大学、職場等でご紹介いただける方がいらっしゃいましたら、献呈致しますので、助手室までお知らせ下さい。